

【参 考】 各委員の意見要約（意見記入用紙への記載内容）

【現地存続について】意見要約

●現地存続は困難との意見（どの案も厳しい、現実的ではではない、安全確保は困難など）

①A案、C案共に概算事業費30億円以上、市の財政に大きな負担となり、一般市民（他校の保護者）の理解が得られるか疑問。対策をしても、100%安全という保証はなく、想定外の大規模自然災害に対しては無力に近いのではないかと。現地存続の場合でも、長期にわたる「分散」は避けて通れず、2度にわたって移転が行われることは教職員、児童、保護者にとって身体的・精神的負担が大きい。将来的に児童数の大幅な減少が予測され、現地存続をしても、20年後、30年後の岡谷小は単級規模（学年1学級）の学校となり、教育面におけるサービス低下は避けられない。「活力ある学校づくり」や「伝統ある教育」の存続も危惧される。将来を展望した場合には「現地存続」という方向には厳しいものがあるというのが個人的な結論。

②岡谷小学校の魅力は、“自然環境”だと思う。自然と安全な通学を考えるとA案が最も望ましいと感じるが、お金と時間を考えると難しいと思う。

③校舎周辺の地形が急峻、通じる道路の安全性が十分でないなど、将来にわたって安全な教育をすることの保証が出来ない。急傾斜崩壊危険区域、土砂災害防止法急傾斜特別警戒区域の改変は好ましくない。

安全性を確保する方策をとっても、校舎を横切っている活断層が動けば被害は甚大。造成工事や校舎の建設工事が長期にわたり、周辺の住居環境に与える影響が大きい。

⑥A～D案の中ではA案。しかし、A案でも大いに不安。災害は、技術の安全率を超えて起きている。現状にとらわれるのではなく、児童と地域に対しての安全対策を最優先すべき。

⑦現地は「耐震補強」という状況ではないこと、子どもの安全を考えたとき、この場所で教育を受けさせることは非常に危険ということを実感した。さらに、唯一車両が通行できる「出の洞沢」は、市内でも一番危険な沢と思われる場所、何か事が起きたときには、緊急車両の進入も不可能。

現地存続が一番に望むところですが、子どもの安全を第一に考えれば、現在まで何事もなく過ぎてきたことが不思議なくらい。現地存続となった場合、何年か先に再び呼び戻され、今回、辛い思いで離れ離れになる児童と、同じ思いをする児童が出ることは是非避けたい。

⑧現在地に岡谷小学校を残したいという強い思いがある。ただし、現在地での存続には、多くの時間と費用がかかるため、岡谷市民と議会の理解が得られるか疑問である。

⑨現地に存続をしたとしても、いずれくるかもしれない自然災害に対して安全を確保することは困難と考える。多額の費用と時間をかけも、何十年も使えるものにはなり得えず、子どもの安全を考えると現地での存続は適当ではないと考える。岡谷小学校に対する想いは理解できるが、現地の状況、子どもの安全を考慮するとやむを得ない。

⑪一番大切にしたいことは、子ども達が日々過ごす学校として本当に相応しい形になるのか、子どもの安全が確保できるかということ。各案に関して、工事自体の難しさを差し置いても、子ども達は一旦、どこかに移らないといけない。何年も別の場所で過ごす状況は避けるべき。結果、配置や規模など学校としての環境が損なわれ、また、多少の危険を許容しても良いという方法は選択できない。現実的な面からすれば、どの案も難しいと言える。

⑫現岡谷小学校区の住民の方々の強い存続希望は十分に理解できる。歴史ある校歴、景観に優れ、森林に囲まれた環境は地域住民の誇りであることも理解できた。しかし、現在の敷地が急傾斜地に囲まれ、軟弱な地盤上の立地をふまえると、土砂災害や地震被害など、より大きなリスクを背負っていることは否定できない。また、現に変状をきたしている校舎を継続使用し、何らかの事故を招いたら岡谷市教育委員会が管理責任を問われても致し方ない状況にあるといえる。今後の児童数の減少をふまえると、岡谷市として現小学校数を維持するのは教育効果や財政的に極めて困難といわざるを得ない。

岡谷市の将来を見据えたときに、何らかの対策をすぐ迫られている岡谷小学校に対し、大きな財政負担と数年以上にわたる学校閉鎖・一時転校を経てまで存続する選択に市民や議会の理解を得ることは難しいであろう。しかし、岡谷小学校に対する格別の思い、心情は十二分に尊重されるべきであり、敷地の安全対策や野外研修施設としての活用、さらに岡谷小学校地を記念するモニュメントなど出来る限りの対策をとることが望まれる。

⑬現地存続を強く望みますが、A案～D案を見た場合、どれも工事期間が長く、児童においては他校に長期的に分散しなければならない状況が発生し、児童、保護者などに大きな負担が掛かるのではないかと思う。

また、それぞれの案に不安となる要素も見受けられる。

⑭現地存続は、自然環境等一番魅力のある選択肢ではあるが、危険が残る以上誰も責任を取ることができない。一定以上（震度7・8）を想定するなら、どこの場所も危険であるので、基準以上の対策がとれないのであれば選択はできない。対策がとれるのであれば一番良い。

⑯危険な場所にわざわざ建てようとするのではない。自然の力を見くびってはならない。人工林地帯の崩壊も災害が起きて初めて天然林の持つ様々な恩恵に気づかされた。よって、現地での存続は困難という判断は妥当と考える。

⑰岡谷小学校はとても素晴らしい環境の中にあり、できることなら存続を願っていましたが、調査の結果などから存続は難しいということがわかり、残念ですが、子どもの安全を考えたら仕方がないと思います。

⑱それぞれの案を検討してきたが、「子供達の安全を第一に」岡谷小学校の存続問題の出発点を考えると各案とも課題が大きく残る。大規模工事による子供達の長時間による分散が一番大きな問題ではないか。安全面の確保、少子化の問題、岡谷市の財政を考えると現実的には難しい。岡谷小学校は、自然に恵まれた環境の中で取り組む学校教育が一番の魅力だと思う。現地存続を願う皆さん、子供達を思う地域住民の皆さんの思いは、1年を費やした検討委員会の中で忘れてほしくないと思う。

●各案の中でA案は容認可能

④自然災害危険区域に指定されていることから子どもの安全性と自然環境保持を最優先すべき。この観点からB、C、D案は容認不可、A案は容認可能、ただし、市理事者と市議会の説得必要。

●C案を強く希望

⑤C案を強く支持する。現在の標高840mを830mに下げ、危険軟弱盛土を撤去、新しく学校を建て直す。同時に地下水の排水が完全にできる。今後予想されるゲリラ豪雨対策にもなり、上水・養殖の水等地下水利用もできる。さらに軟弱盛土が、震度5強～震度7までの地震により土砂崩落の可能性があるため、直下住民の防災対策にもなる。

現状がアカシヤなど大木になり過ぎ、倒木の危険、花粉等の弊害があるため、岡谷口から作る災害避難道路の上下に桜・紅葉・クヌギ等保水力、根張りに適した樹木を栽培し、新しく自然環境を創造する。

残土処理は、岡谷区区有林（樋沢地籍）に搬出、栗を植栽し、辰野町と共同で新しく栗パークの名所地とする。

工事期間中の仮設校舎は、例えば駅前ララ岡谷の2階を使用、校庭は5階を改修、駅南に仮設体育館を設置する等の案も考えられる。どうしてもなければ一時分散も。

工事費用は見積金額28億円（地盤改良+校舎新築）掛かるが、補助金等様々な工夫で可能な数字と思う。

⑰現地存続C案改訂版に賛成

●その他の意見

⑩A案では、周辺の景観との調和は、植林などで回復可能で、危険のあるニセアカシヤなどの処分も同時に可能になる。

B案では、校舎背後及び急傾斜警戒区域の対策を軟弱地盤及び耐震化を行った後に手を付けていけばよいのでは。

C案では、敷地内に高低差のある学校は多数ある。土砂の搬出先が問題か。

D案では軟弱地盤がそのまま残ってしまう。

⑬記入なし

⑮A案について、地盤の対策は安全ではないが概ねクリアできる。大がかりな工事、人工物が増える自然環境の減少は仕方がない。補助金等で地元負担が抑えられれば実現可能。

B案について、一定の地盤対策はできているが地震や集中豪雨等に対して一部不安が残る。費用面では実現性が高く、地元住民や父兄の理解が得られれば実現可能。

C案について、地盤対策はクリアできる。緊急車道をとりながら南側体育館とプールを5m以内のレベル差で配置できるかどうか。残土処理、費用面は再検討し問題がなければ実現可能。

【移転について】意見要約

●移転は困難との意見（厳しい、課題が大きい、現実的ではない、積極的に選択する理由はないなど）

①学校規模に見合う敷地の確保ができず、狭隘な校地に、小学生にとっては危険の伴う5～6階建ての校舎を建築することは、全国を見てもほとんど例がないと思われる。

小学校は豊かな自然環境に恵まれていることは必須の条件で、地域の方々にとってみても、春には桜、夏には深緑の木陰、秋には紅葉といった小学校の自然が織り成す変化は、心潤す貴重な財産である。学区内に、学校規模に見合う適当な敷地がないという現状の中においては「移転」という方向も厳しいというのが結論である。

②「岡谷小学校」がなくなるのは、感情的にどうしても受け入れがたかったので、当初は小さくてもよいので新たな場所に「岡谷小学校」を建設することで、子どもや親御さんの心配は払拭されるのではという思いの中で、移転3案では、「成田公園」が最も望ましいと感じた。しかし、面積不足は否めず、配置などを工夫した移転だけを考えれば可能かもしれないが、大きな問題は騒音です。高速道路、トンネルの騒音の問題は大きい。「中央町駐車場」、「駅南」は、あまりにも狭すぎる。

民地を買収してまで移転を行うとしたら、将来の児童数や市の予算のことも考え、岡谷市内の小学校の再編の中で検討される方が、よりよいのではないかと思います。

③新たな学校建設は、地権者の理解、地域の合意形成が必要で、不確実性が高く早急に対応することが求められているこの事業に適さない。岡谷市の現状をみるに、少子化や人口流出の傾向があるので新たな学校の建設は不合理と思える。

市街地（商業地域）に建設するのは教育する場として不適で、移転候補地として挙がっている土地は、岡谷市の将来を考え、市街地活性化など有効な利用が望まれるところである。

成田公園地区は、過去の歴史や文化があり、その改変は好ましくないと考える。

④自然環境と子どもの遊びに関する安全性は何よりも第一である。この面から考察すると、中央町駐車場、駅南は、昆虫や植物の生育不可能な自然環境から不可、成田公園は自然環境は良いが、遊びを司る校庭と昇降口間に一般道路が存在することは子どもの安全性から承認できない。

⑥3案共に“よりよい学びの場”の環境整備には程遠く、将来の統合に向けた施設にもならず、無駄な投資になると思う。移転地は、岡谷市の将来のまちづくり構想の策定から選定すべき。

⑦候補に挙がっている場所は地理的、地域的に非常に多岐面で移転には困難を極めると思われる。他校との通学区の統合も考えなくてはならない、大編成替えを行うことになりかねません。他人の土地を勝手に候補地に挙げることは論外ですし、交渉には長い年月が必要となるとのこと。

移転は、岡谷市全体の学校のあり方を、今回の岡谷小の問題を契機に、早急に検討されることを望みます。

⑧分科会の報告のとおり、通学区内への移転は敷地面積の関係、駅前という立地等、難しいと考える。

⑨校地に適した用地の確保ができない限り難しいと考える。

⑩移転案は、学校として必要な面積を確保できる見通しがなければ形にならず、可能性はゼロではないが現実的ではない。小さな敷地では、高層化の危険性や校庭の狭さなど、学校としての環境づくりに問題がある以上、相応しい選択とは言えない。

⑪3つの候補は、いずれも十分な代替校地として機能することは難しい。多額の費用をかけ、数年以上の学校閉鎖、一時転校を経てまで移転を行う意義を見出すことは難しい。他の校区市民や議会の理解を得るのは困難である。

⑫検討した移転先の「中央町駐車場」、「駅南」、「成田公園」どれを見ても校舎を高層化する必要があり、小学生が学校生活を送る中で、大きな負担が掛かるのではないかと思う。また、緊急時の児童の安全確保という面で不安がある。

⑬中央町駐車場について、民地買収が前提となり可能かどうか、自然豊かな環境ではないため、積極的に選択する理由はない。

駅南について、民地買収が前提となり可能かどうか、自然豊かな環境ではない。将来湊小との統合などを考えると可能性はあるが、積極的に選択する理由はない。

成田公園について、自然豊かな現施設に近いものが造れる。校舎の敷地が狭く、せめて3階建ての計画にしたい。校庭の広さが不十分ではないか。移転案の中では魅力的だが現実性は低い。

⑭小規模校で残すことは教育の質の低下を招くので反対。

中央町駐車場及び駅南は、自然環境、周辺環境、まちづくりの観点から、検討からは削除すべきであり、いずれにしても、移転は困難と言わざるを得ない。

⑮子どもが減少していく一方で、今更小学校をつくる必要はないと考えています。

●3案の中では成田公園（敷地道路の改良、近隣家屋の移転など）

⑯成田公園・駅南・中央町駐車場の3案では、成田公園が望ましい。この場所は敷地及び道路の改良が必要、駅南は面積で用地買収が必要と思われる。又30年後の人口4割減になって、岡小、湊小、田中小の3校をここに統合する案もある。

⑰3案の中では、「成田公園」が望ましい。

「現地存続」が無理なら、移転しても「岡谷小学校を残したい」と考える保護者の声も多くあったと思う。

しかし、成田公園ですら、自然環境の中では良くても、騒音、敷地面積、建物の高さ等、「小学校施設整備指針」を見ていくと問題点は多くある。

また、現校舎に通学できない以上、新校舎建築までの期間、他校へ移る問題点は「現時存続」と同じ状況になる。

●その他の意見

⑩中央町駐車場、駅南では、高層化すれば出来そうだということ、校地に自然環境が無くなってしまいが、現地を自然学習の場として利用できればよいのではないか。

⑭現地存続ができない場合の選択肢と考えている。現地存続ができない以上、自然環境の低下はのまざるをえない。統合・分散しても同じく自然環境レベルは下がってしまう。それを理由に移転のデメリットとするのはおかしい。どこかの学校と統合して新しい学校でも良いと思う。例えば、岡谷小学校と小井川小学校を統合して市役所の場所に新設する。学校がひとつ減り、無駄な箱モノも有効活用でき一石二鳥で通学バランスも良くなる。

⑰記入なし

【統合・分散について】意見要約

●統合・分散を容認する意見（現状では止むを得ない、一番現実的、統合のモデルにつなげるなど）

①「現地存続」、「移転」共に厳しい状況の中では、自ずと「統合・分散」という方向が現実味を帯びてくる。決してベストとは言えないが、ベターではないかと思われる。近い将来、人口が減少していく状況の中で、児童数が大幅に減少し、小さな学校を何校も維持していくのは、財政面からも不合理であり、負担が重くのしかかってくるのが予想される。

「統合の利点」は市が負担する維持管理費や県が負担する人件費の減、県としても今後は様々な方法で市町村に統廃合を働きかけてくるのが予想される。今、現在を見れば、「なぜ統合なのか」ということになるが、将来的に岡谷市内すべての学校が統合の対象になることは必然であり、岡谷小とどこかの学校の統合は、今後の岡谷市の学校統合のモデルケースとなる。岡谷小の伝統や良さを引き継ぎながらより対等な形で分散（統合）を提言することで、保護者や地域の方々の理解を図りたい。

ハード面も大事ではあるが、「統合・分散」のモデルケースでもっと大事にしたいのはソフト面、岡谷小の良さや伝統を受け継ぎながら、どのような魅力ある学校をつくるのか、学校の教職員や児童、保護者PTA、地域住民とによるワークショップや熟議によって議論し合うことも重要、平成28年度開校に向けて早急に検討をスタートさせる必要がある。

歴史と伝統に輝く岡谷小を現地に残せるものならば残したいという思いが強いが、現状においては、いたし方ない面があり、「分散・統合」はベストではないが、現状においてはベターと考えられる。

②もう時間がありません。子ども達が（親が）安心して学べる学校環境を作るために全力で取り組んでください。

③このまま推移して将来1学年1クラスとなるケースは好ましいと思えない。増える方向が望ましい。転入してくる子どもの不安はわかるが、子どもたちは適応するのではないか、関係者が変化に対応できる環境をつくるのが大事。統合分散に配慮して欲しいことは、新たな通学路の安全性の確保、防犯上の配慮、災害を防ぐ配慮である。

④自然環境や子どもの安全は満たされるので問題なし。

統合分散をせざるを得ない場合は、岡谷小の伝統や良さを残していただきたい。よって以下の条件を満たして欲しい。

校名や校歌など学校の象徴は新しくして欲しい。対等合併の方向で検討願いたい。両校が持つ伝統を残す。故に新統合校の教職員人事は両校の教職員をおおよそ対等になるよう、市教育委員会の人事権を発揮願いたい。学区の検討を、関係区の意向を踏まえながら検討願いたい。

⑥中途編入への対策の難しさを感じます。「新たな学校」づくりへの対策を積み上げて、統合に向けてのモデルになる様な進展を望みます。

⑦「現地存続」、「移転」両案ともに年月を要することで、児童、保護者の心配は大きい。いずれにしても、一度は離れなくてはならないことは明らかで、一日も早く結論を出すことが必要です。

きめ細かな説明会を重ね、保護者の皆さんとともに一刻も早く安全に安心して勉強できるための努力をして、「分散」という言葉の壁の中にも、お互いの伝統を融合させることで、さらに魅力ある新しい学校づくりを、市、学校、地域で進めなくてはならないと思います。

⑧費用、時間、作業性の面だけを考えると一番現実的だと思われる。

⑨一番現実的な手段である。学区の見直しに当たっては、教育的見地のみでなく、防災的観点、まちづくりの観点からも含め設定することが望ましい。

⑩今のままでは決して安全とは言えない。現地存続でも移転でも、何年もかかる大規模な工事になるとすれば、28年4月から子ども達の安全を守るために選択できる方法としては、近くの学校に分かれる新しい環境を作っていくかざるを得ないと思う。その環境の中で、友達やコミュニティができ、学校としても歴史が刻まれる。そこからもう一度戻る選択は、子ども達にとって2重の負担になってしまう。

岡谷小学校を引き継ぐ新たな学校として「統合」は必要ではないか。28年4月までの期間的な猶予はないので統合を見据えた分散も検討していただきたい。

⑫将来を見据えたときに、最も現実的で理解を得やすい選択肢である。しかし、現岡谷小学校の児童の転校に際しては、児童の体力的・メンタル的な配慮を十分行うべきであり、教員の配置やクラス編成、事前交流など具体策を充分練り上げて頂きたい。他の市町村の事例研究も早急に行うべきである。

⑬魅力ある新たな学校づくりに向けた準備委員会・専門部会による検討を、他校も加えて早く始めるべきである。分科会資料はよくまとまっており、今後さらに論議し、実行に移すべきである。

⑭統合・分散は止むを得ない結果だと思います。28年度に向けて、少しでも早く、より良い環境づくりや対策をして頂きたいと思います。保護者の方々にはいろいろな不安な思いがあると思います。保護者の意見を早めに聞いて、安心して28年度を迎えられたらと思っています。

⑮「現地存続」「移転」いずれも困難な状況の中で「統合・分散」の形を進めていく方向になっていく現状だと思う。時間的な問題もある、課題は多くありそうだが、「子供達のために何が大切であるか」を一番に考えてほしい。時間的な面で分散になっても、将来的な中学までの通学区等を考えての統合を見据えた形で新しい岡谷市の学校作りを検討していただきたい。1つの学校がこういう現状になった今、岡谷小だけでなく市全体を見直すようにしてほしい。

●**統合・分散に否定的な意見（現時点では反対、無理がある、積極的に選ぶ理由はないなど）**

⑤統合、分散は、現時点では反対です。全市的な小・中学校のあり方検討委員会を設け、今後の通学区及び小・中学校の数を検討した上で実施すべき。現時点では、通学距離・安全対策に問題がある。又岡谷小の文化伝統・歴史の継承は分散先の学校の伝統があり、対等に継承されるとは考えにくい。さらに岡谷小の校名・校歌を分散先で取り入れるとは到底考えにくい。

⑬平成28年4月から分散すると考えた場合に、準備期間が短く、無理がある様に思える。分散時期については、柔軟に対応する必要がある。「分散」が再度はつきりした場合、保護者など関係する人達から多くの意見が集まる事が予想される。この意見をまとめ、検討して行く事を考えると準備期間が短すぎると思える。

⑮岡谷小の魅力は利便性の高い街中に住みながら自然豊富な学校へ通える点にある。まわりを見渡してもこのような施設は殆どなく、今後も岡谷市の魅力ある教育施設の中心となっていくことが望ましい。そう考えたとき、積極的に分散案を選ぶ理由は見当たらない。

●**その他の意見**

⑩岡谷小の子どもたちは大変優秀であると耳にする。これは、岡谷小の校風というか岡谷小に赴任する教職員の資質、保護者との関係等によるところが大きいと思う。この良い部分を統合分散によって解体してしまうことのないように対策してほしい。

⑭統合するのであれば、新設をするしかない。分散をするのであれば現在通学している児童については、卒業までは現在の学校に通うか先に分散するかを選択肢は与えるべき。

⑲保護者も一番関心のある所だと思う。

時間的な問題もある。通学距離、安全確保、ハード面も課題があり、ソフト面は先生方の力や親としての心のケアをサポートしていく。細かくいうと通学バスを出す場合、負担はあるのか無料なのか。運動着の補助の件、新しく替えていくのか、現状を使っていくのか。親の経済的負担は小さな問題も今は大きな負担にもなる。

⑰記入なし

【その他・総合的な意見として】意見要約

●総合的に統合分散を記述している意見

③国からも公共施設の統廃合が求められ、岡谷市においても児童数が右下がりの状況からすれば統廃合は避けられない。いくらかかっても良いとの意見があるが、行政の公平性、合理的な見地から事業（行政）評価がされる。学校建設を進めるには、文部科学省の補助を申請することになるが、総合的な判断が求められ、現地存続、移転案は認められない可能性が高い。

④ベターな方策は、統合分散である。

⑥一刻も早く統合に向けて“新たな学校づくり”への対策を進めるべきだと思います。

⑧岡谷小学校を現在地に残したいという思いは強いが、子供、親への負担、時間、費用等を総合的に考えると、統合・分散が一番現実的である。早く結論を出し、子供と親に心配をかけないように、こまやかな対応をお願いしたい。

⑨諸条件を考慮すると、現地存続、移転には様々な課題と困難さがあり、統合・分散が最も現実的であると考える。

⑩統合分散は止むを得ないが、岡谷小を残してほしいという意見は、ただ名前を残すのではなく、中身を残してほしいという所にあると思う。岡谷小に通わせたくてわざわざ通学区内に土地を買い、家を買って引っ越してきた方達が多くいるのも事実です。そのような方達が突然学校なくしますと言われて納得するでしょうか？

⑭時間と予算という我々ではどうすることもできない理由で分散やむなしという、実に残念な結果だと思う。せめて提言の部分では、現地存続や移転についてもこれだけ案があり議論があった事をつけておいてほしい。本当の課題はこれからだと思うので、増築して終わりではなく、前向きな議論と対応をお願いしたい。

⑮現地のいずれかの案を推したいが、どの案もわずかな危険性を残す一方、一旦分散し再度集合するという負担も発生する。総合的に考えると分散、統合でやむなし。

●跡地に関する意見

⑥現地は盛土除去等の安全対策を行い、地域の安全を確保。跡地を自然学習ゾーンとして全市的に利用する場への整備を望みます。

⑦跡地利用について、恵まれた自然を壊さない工法で、最大効果のある地滑り防止対策を施し、直下の住民の安全を確保するとともに、子どもたちが自ら、自然に親しみ、自然の大切さを学べる「青少年自然の森」的な公園として、市内全域の親子のふれあい広場として生かしていきたい。絶景や、市街地を眺めながら、生糸の都から歴史を語り継ぐ場、これからの岡谷市のまちづくりを語る展望広場とし、中間には、植栽を施

し、さまざまな体験学習や夜には四季折々の星空の観察ができるほか、地形を生かした登り窯「あかしあ窯」の継続など、魅力溢れる自然学習の場としての公園づくりを望んでいます。

現地存続をするためには、莫大な金額と時間を要します。子どもたちはそれぞれの面で、計り知れない才能を持ち合わせている。その才能を伸ばす手助けのためにお金を使って欲しい。

⑨存続できない場合の岡谷小学校の跡地利用、校旗等の大切な品々についても検討してほしい。岡谷小で育った子供達が中学、高校と進み、他へ進学し、また岡谷の地を振り返った時、自分の育った母校の姿を是非思い出し、なつかしむ「場所」を形として残してほしいと思う。岡谷小の何かを残していけるとよいです。

●まとめ方に関する意見

②委員会を振り返る中で、「お金」と「時間」は、岡谷小問題のキーワードになっていると思います。

現地存続、移転、統合・分散も「お金」に関しては、市として確保していただきたいし、「時間」は現地存続も移転統合・分散も非常に厳しくなるのではないのでしょうか。

もうひとつのキーワードは、「どのような学校を作るのか?」ということ、教育には何が必要か?自然か、それ以外のものもあるのではないかなど、地域や保護者、教職員が協力し、何よりも子どもたちが主役となる学校を作ることが大切だと思います。

③南海トラフの危険区域に指定され、いつ来るかわからない地震災害等を考えれば、心配されている住民が多く、早急に判断をするべき。

④検討委員会メンバーには、どういう案であれ責任を持つことはできない。最終判断は、委員会の発言、検討案を踏まえて、市にお願いする。今後、市内の小中学校の数や学区について、総合的に検討する時期に来ている、この希望を生かしながら、総合的に検討願いたい。

⑤今回の岡谷小の問題は、安全が主題であり、岡谷小安全対策と直下住民の防災対策を同時に解決することが必要である。

⑩1年間の検討は、今までの資料にある程度集約されている。委員会としては、これ以上時間をかけるべきではなく、早く次の段階に進むことが保護者や関係者のためになると思う。最終的な決断は、市と教育委員会の責任においてされるべきであり、この1年間の検討内容をそのまま行政に伝え、正しい判断をしてもらうこと、それだけの検討は尽くしてきたと思う。

⑫この委員会は、教育委員会の諮問機関として検討を重ねてきたのであって、何らかの決定を行う権限も責任もないのは明白。平成27年度末という期限を考慮したとき、これ以上、検討結果の報告を延ばすことは許されない。委員会として検討した結果を早急にまとめるべきであり、この間出てきた様々な意見を併記することが望ましい。まずは検討結果をふまえて教育委員会が責任ある判断を下すべきであり、引き続き具体的な対応策を検討する準備委員会に早急にバトンタッチすべきである。

⑬提言をまとめる際に、あり方検討委員会としての結論は出さず、各分科会で検討して来た内容を、そのまま提言としてまとめて欲しい。「現地存続」、「移転」、「統合・分散」でのそれぞれの方法、検討内容を提言とし、それを受けて岡谷市としてどうするのかということを再度検討していただきたい。

⑭文部科学省「小学校施設整備指針」を厳密に精査することから出発することを再度確認すべきである。

⑮子どもたちの為に少しでも早く前に進んで行って欲しい。

⑯「岡谷小のあり方検討委員会」が発足して1年、各分科会にわかれて、様々な事を議論してきました。岡谷小学校を残したいと思う保護者、地域の皆様の強い思い、費やした時間は大切にいただき、今回の「提言書」提出としていただきたい。現在通学している子供達の心のケアもしっかりサポートして、ハード面もソフト面でも準備をしっかりしてほしい。

●その他の意見

①特になし

⑬「現地存続」、「移転」、「統合・分散」のどんな形であれ、「岡谷小学校」を残すことは出来ないものでしょうか。

⑰今後の市政のためにも、これまでの市の進め方について検証を要望。